

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

# あの手この手

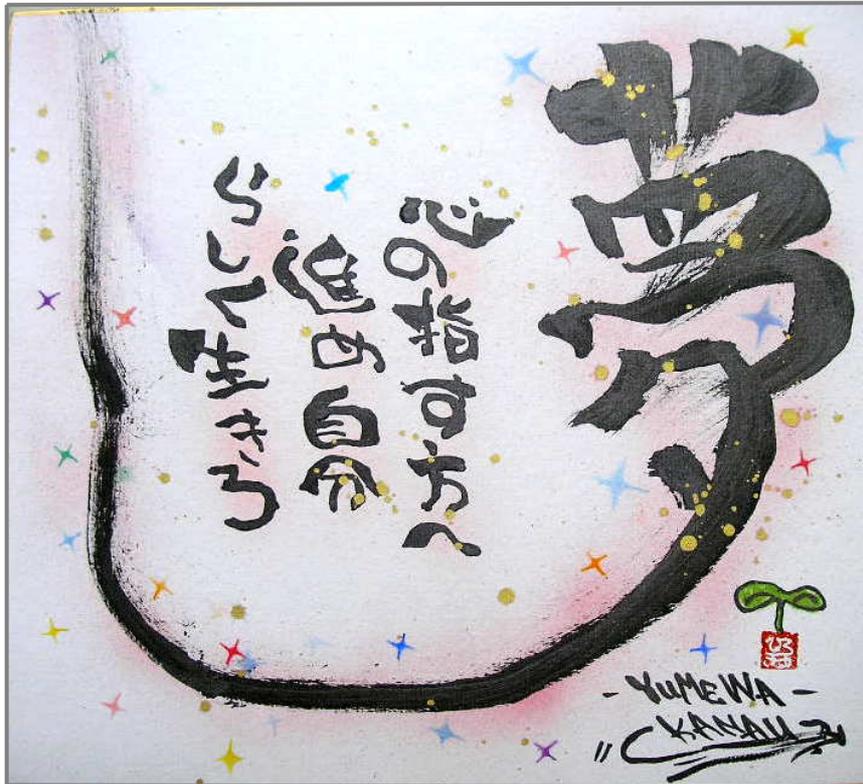
2010  
7  
月号



今年も会えてうれしい！  
—織り姫—

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第40号 2010年7月1日発行



作品:「夢はかなう」 格闘詩人ちゃんぶ

夢を描き、夢をかなえるために動く大人が増えて欲しいんです。  
 夢をかなえるために動き、輝く大人が増えれば、  
 それを見た子どもたちが夢を持ちます。  
 子どもたちから笑顔を取りたいのです。  
 子どもから夢を取りたいのです。  
 暗い世の中だという人がいますが、  
 それを変えるのは自分が光ればいいのです。  
 自分が夢をかなえるために動けばいいのです。  
 人は夢を持つと輝きます。  
 僕の力は微力かも知れないけど、無力ではありません。  
 日本を元気にしたいのです。  
 そして、世界に平和の風を吹かせたいのです。  
 僕は自分の可能性とあなたの可能性を信じます。  
 そして、僕は今日も“我勝道”を体現し、  
 元気で明るく温かく、人に親切に笑顔で過ごす。  
 そして、今日を人生最高の一日にするため努力を惜しまない。  
 「さあ、共にゆこう」 [00570387s@merumo.ne.jp](mailto:00570387s@merumo.ne.jp)

に空メールで送信するとメルマガ登録になります

\*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

「ありがとうの和の輪」の3回シリーズの2回目。  
 “格闘詩人ちゃんぶ”さんは対面した人の目を見つめて、浮かんだ言葉を色紙に書く路上詩人。  
 カッコフェスタ'09で子どもから大人まで、たくさんの方が彼の前に座り、インスピレーションによる言葉を書いてもらっていました。



**ダイジョウのひとりごと**  
 考えてもごらん。今、私は何枚の葉を身にまとまっているかを。10万枚？ うーん、私にもわからん。でも、その1枚1枚が葉から水分を蒸発させている。夏の温度を4℃ほど下げているらしいのだよ。

### 「センター」からのお知らせ

会議室等予約は9月分より1時間単位で受け付けとなります。

### <送付の際、同封されているご案内>

- ・7/24(土)実施の第33回連続共育セミナー「親子、兄妹で似顔絵 描きっこしよう」のお知らせ
- ・中・高生の夏休みボランティア体験「このゆびとまれっ！」のお知らせ

# 「新しい公共」であなたの想いを実現

## 市民活動推進補助金事業公開選考会

6月5日(土)14:00～勤労福祉会館3Fホールにて開催。  
選考委員からは各団体に温かいアドバイスがあり、第1回目の投票ですべての団体が3票以上を獲得し、今年度の補助金が交付されることになりました。会場全体にホッとした空気が流れた。

### めばえ

- ★「住宅火災報知器取り付け推進事業」  
(中央林間南地区街づくり委員会)
- ★「アタッチメントサポートセンター事業」  
(くじらのしっぽ)
- ★「発達障害児・者等の支援活動整備事業」  
(一般社団法人 クロスオーバー大和)

### はぐくみ

- ★「プレママ・パパ チャレンジ離乳食教室」  
(栄養サポートやまと)
- ★「わが街の資源再発見事業」  
～住民活動による地域の宝探し～  
(内山の街づくりを考える会)
- ★「平和を構築する写真展」  
～子どもの未来のしあわせのために～  
(チームピース チャレンジャー)

## 協働事業提案発表会

6月13日(日)13:00～勤労福祉会館3Fホールにて開催。

- ★「プレママ・パパチャレンジ離乳食教室」  
(栄養サポートやまと)

出産前に離乳食の作り方を体験して、離乳食開始時の不安を解消させたいと提案があり、推進委員からは大和市に多い外国籍の人たちも対象に考えたらどうだろうか、というような意見が出された。

- ★「障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業」(大和市腎友会)  
地域の共生をめざして共助を実現するために、小中学校、地域でのふれあい体験交流を実施したい。災害時の支援制度の実体化を進めたい、と提案。推進委員からは医療系の企業や市内のサークルとの連携をとったらいのでは、とのアドバイスがあった。

## 協働事業意見交換会

7/10(土)13:00～勤労福祉会館3Fホールにて開催。

誰でも参加できます。よりよい活動になるよう、前向きなアドバイスをお願いします。

## 検討結果報告会

8月下旬予定



## 市民活動の現場から —大和市芸術文化振興会—

### 住宅街にピアノとサクソフォンの響きが…

～シヨパンから未来へ～

5/16(日)の爽やかな午後のひとつ、会場のウィーンホールを探して大和駅前の東側プロムナードを歩いて行くと、左手に代表の小林三夫さんを発見。FM やまとの「やまとっこ☆みつけた」で話していたとおり、演奏会当日はホールのオーナーでもある小林さんが駐車場の案内係をしていました。

ピアノと4本のサクソフォンの迫力ある演奏が、個人が所有するホールで演奏されることに驚きました。

メンバーの一人が綾瀬市立城山中学校の先生と旧知の仲で、吹奏楽部のサクソフォンパート4人の生徒とのコラボレーションが実現。親御さんでしょうか、涙を流している方もいらして、とても温かみのある演奏会でした。

「大和に住んでいてよかった、という子どもたちが多くなるよう、魅力的な環境をつくっていききたい」と、ラジオで話されたことが実現しつつあると思いました。(M.I.)

### ♪ウィーンホールからのお知らせ♪

8/26(木)9:30～「わくわく楽器探検隊」という夏休み子ども体験教室を開催します。

トランペット、ピアノ、ドラムにチャレンジしてみませんか？入場料は500円。

問合せ：050-1387-8974

携帯 090-3340-3864



大和市芸術文化振興会は身近なところでの芸術の鑑賞の機会を提供したい、子どもたちに優れた生の音楽に触れてほしいとの思いから、画家と演奏家数人で会を発足。文化芸術を創造し、享受し、個々の感性を高め、心豊かな活力ある社会実現のために活動しています。

### 「センター」のある日ある時

#### 5月7日(金)くもり

なかよし公園の管理委員川端さんがサクラノ枝を届けてくださった。もう鳥や子どもたちが食べ始めているので、2日間くらいでなくなってしまうかもしれないと、来館。昨年も届けてくださった次の日には、すっかり鳥に食べられてしまったと、後日お聞きした。絶妙のタイミングで届けてくださって、目と舌で味わいました。



さくらんぼを前につっこり。  
(スタッフ中山さん)

### 5円で広がるご縁「情報交差点」

「情報交差点は偶数月の1日にお届け。イベント情報、仲間を広げたいなどのチラシを「センター」へお持ちください。1枚5円で約200団体へ発送できます。(1,000円)封入作業をしながらのコミュニケーションは、まさに井戸端会議。楽しさとお得感がいっぱい。

\*次回は8/2(月)にお届けします。

7/31(土)が封入、発送作業日です。

103歳のちぎり絵作家上田伊さんがお亡くなりになりました



103歳の伊さん

5/27～5/30まで高座渋谷のイコーザで開催された、ちぎり絵作品展の最終日にお亡くなりになりました。105歳になったら、また作品展を開催したいと、言っていた伊さんの話、表情を映像に残したいと思い、市制50周年記念映画の監督さんをお願いしていたのが冬のはじめ。伊さんのところにいつ伺いましょうか、と相談をはじめた矢先の訃報でした。



「徳之島の闘牛」

ちぎり絵の素晴らしさはもちろんですが、「婦人の職業の早道は美髪師」という広告を見て、美容師になった話。60歳で故郷の徳之島に帰り、80歳までレコード店を経営。万引き事件での警察官とのやりとりはウィットに富んでいて、ひとりで聞くだけではもったいないと思ひ、「是非、市民活動センターにいらしてください」とお願いしたところ、快く引き受けてくださったのに…

『120歳を元気に生きる会』に招かれたときのこと。お孫さんが「おばあちゃん、じゃあ明日、大和の駅でね」と約束しているのです。「えっ、ひとりで大和駅まで行くのですか」との私の問いに、「いつもそうしているのよ」とあっさり答えられたのが半年前。83歳でちぎり絵を始め、まさに103歳まで現役だったのです。

「運がよかったのよ」と繰り返しおっしゃっていましたが、運がよかっただけではないはず。前向きに生きていらした伊さんの人生は、あの笑顔に凝縮されています。

「あの手この手」の表紙にちぎり絵を掲載させていただくことでお会いでき、楽しいお話を聞くことができ、幸運でした。ありがとうございました。(M.I.)

\*「センター」に上田伊さんのちぎり絵作品の一部ですが、写真に撮ったものを展示しています。ご覧ください。

★★

連続共育セミナー第 31 回

5/22(土)に開催しました

市民活動センターのきのう、きょう、あした  
～よりよい「センター」をめざして～

私たち事業者もその特性を生かして「大和市のまちづくり」に……村上絵里さん(ドコモショップ大和店副店長)

事業者が参加する「新しい公共」のカタチを今年度の「センター」は考えていこうと、前回の「連続共育セミナー」に続けて、[拠点やまと]メンバーと大和市中で営業を展開中のドコモショップ大和店の副店長村上絵里さんの出席を得て、「センター」と事業者の関係の有りようを話し合った。「携帯」は電話だけではない、文字や映像

をやりとりするコミュニケーションのもう欠かせない全世代の「道具」になっている。この「道具」が内包している表現の広がりをもっと活用してコミュニケーションを豊かにしていく、その学びの場を提供してくなかで、「事業者が参加する「新しい公共」のカタチ」や課題が見えてくるのではないかというセミナーになった。(T.K.)



連続共育セミナー第 32 回

6/24(木)に開催しました

もしものときに、パニックにならないために



今里鐵男さん

海のもしものは118番。もしものときこそ、冷静に。

講師の元海上保安官の今里鐵男さんは、警備救難部に所属され、海難救助、海難防止、安全指導など、多岐にわたってご活躍されてきた経験から、非常に興味深く、そして、分かりやすく講演をしていただきました。

他にも、パニックにならないためには、「反復訓練、再確認、意思疎通」といった、日常の訓練が必要で、このことは、私たちの生活でも、いざ災害になった時への事前対策としても、役立つ事でもあります。

最後に、私自身、危機管理に対する意識も変わりましたので、事前に来る事は、しっかりと準備したいと感じました。(参加したY.S.さんの感想)



待ってま～す  
by あずみ

次回の連続共育セミナー第 33 回は  
「親子、兄妹で似顔絵 描きっこしよう」

日時:7月24日(土)10:00～12:00  
場所:大和市民活動センター会議室



趣ほのぼの絵師あずみ

海上保安庁の主業務は当たり前ですが、海上ですので、私たちの日々の生活では、なじみが少ない職業です。海難事故や台風などの自然災害などが起こった時に、生命・財産などを迅速に守ってくれ、そのために日々たゆまぬ努力をされていることに、敬意と感謝の気持ちを持ちました。

また、お話を聞いて感じたのは、海難事故になっても、海上保安庁があるから、大丈夫！と思うのではなく、私たちが海に出る時は、危機管理意識を持ち、①ライフジャケット着用。②防水用携帯電話の持参。③「118番」を覚えておく。この3つだけを守ることだけでも、事故などが未然に防げるのだと知りました。

『やまとっこ☆みつけた』

第 101 回 5/4(火)～経験を短歌作りに反映したい～

＜柏木学園高校 3 年生たち＞

短歌書道部はいろいろな経験をすべて短歌の力になるよう、詩吟・剣舞・ボランティア活動に挑戦してきました。その活動がそれぞれ同じ重みを持つようになりました。パーソナリティのジョニーさんの進行で先生と生徒が和やかに現在のこと、これからのことを話しました。

第 102 回 5/18(火)

～早く慎重にをモットーに～

＜大和市点訳赤十字奉仕団＞

点訳のルールを教わり、改めて文法の勉強をしたり、辞書を引いたり、慣れないインターネットで調べ物をしたり、大変なこともあります。その大変さが逆に面白さとなり、ボランティアを続けている動機につながっています。毎年読者の方と新年会を開き、いっしょに合唱・ゲーム・食事などで交流を持ち楽しいひとときを過ごす時、活動をしてよかったなあと感じます。

第 103 回 6/1(火)～制度で支えます市民活動～

＜大和市役所市民活動課＞(村山真弓)

市民活動を応援する 3 つの制度を紹介しました。

- ①資金で応援：市民活動推進補助金
- ②行政と共に活動する：協働事業提案
- ③市民活動中の事故を補償する：市民活動保障制度 熱い思いを支える制度を利用してくださいね。

第 104 回 6/15(火)

～安心して住み慣れたところに住み続けるために～  
＜市民のための介護保険をつくる会＞

淡々と進行するパーソナリティと場離れた二人のゲストが「介護保険を促進する」運動への参画した動機、現在の状況、これからの取り組みへの意欲をしっかりと伝える様子に、1 時間という時間を感じさせない、すばらしいひとときでした。(今里鐵男)



毎回スタジオから生放送しています。  
6/15(火)は、サポーターの今里さんが見学をして感想を書いてくれました。

第 105 回 6/29(火)

～日本一を目指して～

＜やまとプロムナード古民具骨董市＞

平成 10 年に地域の活性化のために 67 店舗ではじめた「やまとプロムナード古民具骨董市」は、現在では 227 店舗までに膨れ上がりました。大和は観光となるものが何もなく、大和を目指して来る人は少なかったが、これからは、駅から 0 分の骨董市を目的として足を運んでもらいたい。227 店舗のみなさんは、出店ルールをきちんと守って営業しています。

\*「朝ラジ ホットスクランブル」は再放送が 2 回あります。  
当日の 15:00～16:00 22:00～23:00

＜これからの出演団体＞

- 第 106 回 7/ 6(火) カットスタジオみどり
- 第 107 回 7/20(火) 引地川かわくんだり実行委員会
- 第 108 回 8/ 3(火) 引地川水とみどりの会こどもエコクラブ
- 第 109 回 8/17(火) 柏木学園高校短歌書道部先生
- 第 110 回 8/31(火) 柏木学園高校短歌書道部生徒

つ ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつ

赤フンで丸坊主時代の夏。友達と沖に向かって飛び込み、疲れると仰向いて浮かぶ。水ぬれ裸で駅構内を渡り“塩むすび”を家で食らう。(望月則男)

朝、鉢の水やりを忘れて帰宅。植物達がぐったりしている。慌てて水やり。ぐんぐん元通り。立直りが早いところ私みたい。くすつと微笑。(村山真弓)

戦後間もない小学生の頃、外で日暮まで遊んだ。青空・白雲、麦畑・トンボ、田圃・ザリガニ、小川・メダカ、夕焼け・・・夏の思い出は尽きない。(浅見正明)

夏が来れば、思い出されるのが今年の夏の出来事である。猛暑の中、病との戦いである。この戦いと精神的ストレスは、生涯忘れないであろう。(松村 穰)

小学生の時のキャンプ。最終日は配られた数個の乾パンと 2 個のドロップだけで炎天下を歩き続けた。ひもじかった夏の日の思い出。(中山みゆき)

熱血編集後記

テーマは、夏が来れば・・・



金魚すくい捕まっちゃったの？

夏が来た。夏休みだ。中高生は「このゆびとまれ！」に参加しよう！(櫻井貞代)

小学校 6 年間の夏休みは山の親戚の家で過ごしました。父が迎えに来ると飛びついたものです。今は私が訪れるとニコニコする父がいます。(関根孝子)

母の実家は栃木の山奥。川で泳ぐ。冷えた身体を日差しで熱くなった川原の石であつためる。少年時代の「夏」がここにあった。(小杉皓男)

夏休みに入ったらすぐに荷物を送り、実家へ。一ヶ月まるまる真黒になって遊んだ子どもたち。みんな可愛かったあの頃に戻って！(石川美恵子)

\* 今号の用紙は水色。清らかな透明の水に浸りたい季節です。

「あの手 この手」第 40 号 発行日・2010 年 7 月 1 日

発行・大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館・月～土 9:00～18:00>  
〒242-0021 大和市中心 1-5-1

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788  
E-mail:yamato@ar.wakwak.com  
http://www.kyodounokiyoten.com/



「食育カルタ」パッケージより

大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する  
広報紙「あの手 この手」。  
7月1日付け7月号(第40号)をお届けします。

先月6月に群馬県安中市磯部(いそべ)にある磯部幼稚園に伺う機会がありました。この幼稚園で10年以上も実践している「お山保育」という自然環境教育を体験するため、園児たちとの山行きでしたが、その「お山」のふとこで、朴(ほう)の葉をお皿にしたバーベキューとおむすびの野外昼食の折り、「確か群馬県には『上毛かるた』とかいうかるたがあり、例えば『あ』なら『あ』という、誰でもすぐに『あ』の言葉を即唱えると聞いていますが」と私が言い出したとたん、待ってましたとばかり、まわりにいた幼稚園の先生たちが輪唱するように「浅間のいたづら鬼の押し出し」「『い』は伊香保温泉日本の名湯(めいとう)」と続けて「碓氷峠の関所跡」「縁起だるまの少林山」「太田金山(かなやま)子育て呑竜(どんりゅう)」と返ってきました。

「かるた」の威力、畏(おそ)るべし。

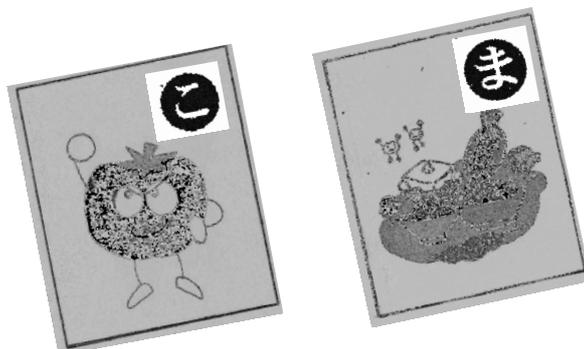
かつて、この「お届け文」で大和市区の一部を成す中央林間地区を舞台にした「中央林間 博覧強記 加留多(カルタ)」のことを紹介したことがあります。

<せ=関取の 丁髷(ちょんまげ) 姿 角力(すもう) 場>昭和6年(1931年)土俵を作り、相撲力士の養成場を開設した。<た=多胡(たご) 公園 翁(おきな) と 媪(おうな) で 睦まじく>平成2年(1990年)大和市に広い庭園を残してほしいと、寄附された方がいたなどを例にあげました。

で、大和市からまた「カルタ」がということで、紹介するのは[FMやまと]「ラジオ食育の時間」のパーソナリティ=片山 泉さん(大和クッキングスクール副校長)が作成、5月に発行した「健康都市やまと・食育カルタ」。

これはいいことだなあと思ったのは、読み札は食をテーマに市民が考え、23人から集めたということ。そして、できあがったこの「食育カルタ」を大和市内の幼稚園・保育園、小学校になど70箇所へ寄贈したということです。

露地栽培の夏のトマトをがぶり。そんなとき「こ=この味だ 食べればわかる旬のもの」と、思わず言ってしまったとか、納豆や豆腐を見て自然に「ま=豆は日本のヘルシー和食」と大和市の子どもが言っている姿を想像するのは楽しいなあ。 2010/07/01 記・[拠点やまと]広報係 小杉皓男



「食育カルタ」  
イラスト: 土路生典子さん